

自己評価についての分析

<全体>

- ・昨年度の自己評価の反省から、評価しづらく分かりにくい項目を見直した事で昨年度に比べ全体的に評価が上がっている。
- ・ほとんどの項目で良い評価を得られた事から、一人ひとりが自分の保育指導に自信を持って取り組んでいる事が分かる。

<保育・指導>

- ・“建学の精神を生かした保育”については、どの項目においても高評価となっている。この事から、職員全体が保育を行う中で、子供の事を理解し、建学の精神を念頭において指導出来ていると考えられる。
- ・“建学の精神を生かした保育（感謝）”と“（努力）”は昨年度と比べて、特に高評価となっている。この事から、日々の保育に活かしやすく、職員一人ひとりが「やればできる」を目標に保育指導を行い、園行事や日々の生活の中で、目標を達成してきたのではないかと考えられる。
- ・“物事に対する善悪の判断”は昨年度より少し低い評価となっている。物事に対する善悪の判断に関しては、常に指導をしているが、相手に気持ちを伝える方法を指導するのが難しく感じている職員が多いと考えられる。

<保護者との連携>

- ・“保護者からの提案や要望への取り組み”については、保護者からの意見や要望をしっかり受け止め、職員同士で話し合い、出来る範囲での対応をきちんと行っている事から、このような評価となった。今後も、子供達の様子について等、職員一人ひとりが分かりやすく伝える事を意識し、子供達を良い方向へ導いていける様に、保護者と一緒に考えていく努力をする必要がある。

- ・“保護者の不安や相談への対応”は、保護者の不安や相談に対して、一緒になって考えていこうとする姿勢を職員一人ひとり持っているが、子育てをしている職員が少ない為、保護者の不安や相談に対し、しっかりと力添え出来たのか、自信が持てず、評価として低くなったのではないかと考えられる。

<安全面>

- ・今年度は地震や火事を想定した避難訓練に加えて、近隣との避難訓練に参加出来た事もあり、“災害時の避難経路の確認及び対策”において、確認し直すこと事が出来たと考える。
- ・“園庭遊具・室内玩具の安全点検や修理”は、低い評価となっている。職員それぞれが、部屋の片付けや戸外へ出た際に、目視で確認しているが、チェックシートなどを付けていない為、低い評価になったと考える。来年度は、毎月一回、園内と園外の安全点検を行い書面で残す事で、職員の安全に対する意識を高めていきたい。

<学級経営>

- ・どの項目においても、全体的に高めの評価となっている。特に“学級経営における情報交換や協力”については高評価となり、職員同士での情報交換や協力を常に心掛けているからではないかと考える。引き続き、職員同士で協力し合える環境を維持していきたい。

<研修>

- ・研修項目は全体と比べて、低評価となっている。今年度の園内研修では、直接保育に活かせる内容というより、認定子供園に移行する為の研修が多かった為からではないかと考える。

<その他>

- ・“職場での意思表示”は、昨年度と比べて高評価となった。職員間の関係が良く、一人ひとりの想いや考えを伝え合う姿勢が多く見られるからではないだろうか。